

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、その人らしい地域生活の継続支援ができるよう、介護サービスに徹した理念を作りあげている。</p> <p>○</p>	<p>第3ユニットで暮らされている利用者一人ひとりが、家族のように我が家のようにくつろげる環境づくりに、今後も努めていきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>管理者と職員は理念を共有し、毎朝、申し送り時に理念を唱和し、実践に向けて日々話し合える機会を設けている。</p> <p>○</p>	<p>第3ユニット職員で、第3ユニットの社員心得を決め、毎朝唱和していきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>理念の浸透を図るため、地域住民に対してパンフレットの配布、介護セミナー開催告知、施設見学などの機会がある都度、運営理念について説明している。また、家族等にも見学時および契約時に、十分理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣の花屋への買い物、クリーニング屋への立ち寄りを、利用者と共に日常的に行っている。防災訓練などのイベント行事に、利用者と一緒にイベント告知のチラシを持って、地域住民の方の参加を勧誘する等、住民との交流を深めている。</p> <p>○</p>	<p>隣り近所との交流を今後更に深めていきたいと同時に、気軽に立ち寄れる事業所として目指していきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>介護セミナーの開催、地域の小学校の運動会など、地域イベント、老人会、自治会のイベントへの積極的参加、市役所・地域包括支援センター、担当地区の民生委員長、家族等と取り組んでいる地域運営推進会議の定期的開催、担当地区の生徒によるボランティアを積極的に受け入れ、地域との交流に努めている。</p> <p>○</p>	<p>今後の地域運営推進会議で、地域活動に更に参加する方法を検討していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ケアマネージャー、管理者が十分に説明を行い、不安、疑問点を聞き、理解し、納得していただいている。</p>	<p>○</p> <p>その人その人によって、状況の違いや不安に思っていること、疑問点が違うので、その人の立場になり、今、何が一番必要かを考え、少しずつ信頼関係を築いていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置している。できる限り一人ひとりの利用者とのコミュニケーションを取り、気軽に意見を言える雰囲気作りに努めている。1対1になった時、本当の気持ちを言っていたり、ただの機会が多く、夜勤帯に意見を聞いている。寂しいと言われる方や孤独になっている時もあるため、少しでも家族から生活歴などの情報をいただき、意見をつなげ反映している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会時や電話、こすもす便り等で、家族と話す機会を持ち、少しのことでも報告している。金銭管理については、小遣い帳を利用者全員に作成し、定期的に家族に報告している。職員の人事異動については、新職員の紹介と併せて報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等が意見、不満、苦情を遠慮なく言えるような社内体制を築いている。意見箱の設置を始め、直接、管理者や職員に気軽に言えることができるよう何か困った事はないか、意見を聴き取りすると共に、必要であれば、運営推進会議へ議題として取りあげている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者・管理者で定期的にミーティングを行い、運営方法・改善点があれば、実行できるものから随時実行している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の不穏時や体調不良者がいる場合は、職員と話し、時間調整をしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者が不安にならないように、各階管理者と十分に話し、異動は必要最小限にしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設長は、管理者・職員が内部・外部研修が受けられるよう、研修日数の確保と研修費用の援助などのバックアップやJ・O・T形式で、常に職員の介護技術および質の向上に努めている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の施設へ勉強に行く機会を作り、ミーティング時に発表してもらっている。自分たちのいい所、悪い所も分かってもらい、サービスの質を向上させている。</p>	<p>○ 今後も交流する機会を多く持ち、意見交換していき、質を向上させていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>食事会や面接等で職員の声を聞き、働きやすい職場になるよう取り組んでいる。利用者同様、いつでも職員が不安や悩みを相談できるような雰囲気作りに努めている。休憩もしっかり取ってもらい、できる限り休みの希望を聞くよう配慮している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>施設長は、管理者・職員が資質の向上のため、また、モチベーション・アップのため、定期的な施設長との個人面談の他、各自の勤務態度・職務遂行能力・業績を反映した給与形態(昇給・賞与)を採っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>話しやすい環境を作り、表情、しぐさ(動作)などで思いを読み取り、信頼関係を築き、安心して生活していただけるよう支援している。職員全員が本人のニーズがどこにあるのかの情報を共有化し、徹底を図っている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>話しやすい環境を作り、少しでも生活歴などを聞くことができるよう配慮し、努力している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回時の電話による問い合わせ、見学などで、利用者・家族のおかれている状況をよく理解し、利用者・家族の身になって、介護サービスについて説明することで信頼関係を築くと共に、他のサービス利用が適当と認められた場合は、その対応に最大限努力している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があった場合、本人・家族は施設内を見学することで、施設の構造、職員、利用者の雰囲気を知り、少しでも馴染めるよう配慮できている。また、詳しく説明することで不安の軽減に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	知っている事柄であっても、知らなかったように振る舞い、孤独にならないように注意する。また、馴れていただき、喜怒哀楽を出せるようにする。	○	時には、子供になったり孫になったり、家族になったりして、利用者の居場所作りやご本人が必要だと言うことを分かっていただけのように努めたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも安心していただけるよう細めに連絡を取り、その都度あったことを話している。	○	今後も、ご家族と施設との壁を作らず、支援していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者が語られる言葉を全部発せず、忘れていく記憶の中でも回想し、悪い事柄であっても、必ずフォローを入れるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今後もできる限り面会していただけるように努め、出入りしやすい環境になるよう努力している。壁を作らないよう今後も継続していく。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人ひとりの行動、言動に注意し、失敗したことであっても職員が失敗したことにし、利用者が孤立することのないよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	地域密着型になり、誰でも気軽に入れるアットホームな場所として地域に提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と向き合い、意見や思いを受け止め、ご家族にも意見をお聞きし、情報収集、検討し、支援している。	○	今後も、利用者・家族と、できる限りコミュニケーションを取るよう努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・チームから情報収集し、ご本人の求めているサービスの把握に努めている。これまでの馴染みのある生活が、継続してできるように努めている。	○	現在、利用者の介護をさせていただいている中で、どの利用者も昔の話をよくされる。会話をしていると、個々の精神安定のために過去の情報がとても大切だと感じる事が多く、その人らしさを維持するための趣味や役割の発見に役立て、馴染みの関係を築きながら情報収集に努めたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプラン、ケース記録、日誌や申し送り等で把握するように努めている。	○	職員全員が利用者の状態がいつもと違う、何か違うという気づきの目を養っていけるよう、日々の状態を観察し、把握することが必要である。また、利用者の残存機能を活かせるよう、できることは時間がかかってもしていただき、見守りをする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との日々の会話によりニーズを把握したり、カンファレンスの際に職員から意見を収集してもらい、家族の方からは、面会時などに意見をいただき、プランに反映している。	○	今後ご家族と連絡を取り、意向をお聞きし、同時に利用者本人の望む支援を検討していき、プランに反映していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その方に合ったプランを長期目標、短期目標を作成している。モニタリングで3か月ごとに経過を考えたり、状態が変化した時もカンファレンスを行い、プランを作成している。	○	いつでも実践的な対応ができる介護計画になるよう見直し、職員全員で話し合っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録に健康状態、様子、ケアの状態、食事の状況、排泄状況を記入している。特に注意すべき点は、申し送りノートに記入し、情報を共有、実践に活かしている。</p>	○	<p>今後とも家族、関係者と連携を取り、利用者一人ひとりがより良く暮らすための支援の方法を検討していきたい。自分らしく笑顔で生活していただきたい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>デイサービスでのレクリエーション(コンサート・演奏・踊り)などに参加していただいている。利用者と家族の生活を尊重し、いつでも面会できるように配慮している。</p>	○	<p>今後も体調を見ながら、できる限り参加していただき、楽しんでいただきたい。</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>外部ボランティアの活用、消防職員による避難訓練、緊急対応訓練を実施している。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>本人の意向を踏まえ、より良く暮らし続けるために、他事業所のケアマネジャーとの話しなど、必要な情報の収集を行っている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括支援センターに権利擁護についての講習を依頼し、協力をいただいている。また、定期的開催している「地域運営推進会議」において、ケアマネジメント等について協働している。</p>		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>状態に変化があった際は、かかりつけ医にスムーズに受診できるように、診療情報提供書により、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけの認知症専門医が既にある場合は、利用者・家族の希望をもとに継続して受診・治療しているが、かかりつけの専門医がいない場合は、協力病院(綾田内科クリニック)および認知症専門医の協力のもと、認知症の診断・治療を行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	正看護職員が常に利用者と接しているため、利用者からも気軽に相談できている関係にある。また、看護職員による看護についての内部研修も実施しているため、介護職員による統一したケアの支援体制ができています。	○	利用者本人の意見を第一に尊重している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院のソーシャルワーカーと協働し、退院に向けて病院との情報交換や相談を密に行い、退院後も安心して暮らせるよう連携を図っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで対象者はいなかったが、今後重度化した場合は、早い段階から家族、本人と連絡を密にし、意向の把握に努めている。また、病院関係者と連携を図り、利用者にとって最善の方向性を検討する場を設け、適宜、意向を確認していく。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	これまで対象者はいなかったが、今後重度化した場合は、かかりつけ医と早い段階から相談しあい、利用者が、日々より良く暮らせるための方向性を話し合う場を設ける。また、重度化する前の段階で、日々状態に変化があった場合は、看護師と情報を共有し、医師との連携が図れている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所へ移り住む際、家族・本人と居所先と連絡を密に取り、口答でも情報を提供し、施設でのケアが引き続き行えるよう配慮している。転居後も連絡が取り合えるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	何気ない言葉が利用者を傷つけている時があるので、職員一人ひとりが意識し、個人情報の保護、管理の徹底を全員で図っている。個人情報に関する対応については、個人情報使用同意書を作成し、理解いただいている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	本人の思いや希望を尊重している。また、認知力の低下が見られる状態になっても本人の意向や思いを察知して、本人主体で生活できるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を踏まえ、必要に応じて、ケアマネージャーとの話し合いをしている。外出や行事などでは、本人の希望に沿って参加できるように支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの理容室を利用される方や、ホーム内での美容師を希望されている方は、新たな馴染みの関係を築いている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を取り入れた個別の対応や、ミキサーなど食べやすい食事の提供を行っている。準備、後片付けも一緒にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや飲み物等の嗜好品は個別に保管し、必要な時にいつでも食べられるよう支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別にトイレの声かけやオムツ交換を行い、排泄記録・排尿パターンを把握し、できる限りトイレの排泄を促す努力をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日を決めず、本人の希望により提供している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人は居室で自由に休むことができる。また、休息の場を提供しており、安眠や休息の支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の役割や楽しみは、自分のペースで行えることができるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々でお金を預かっているため、外出時に買い物ができるよう支援している。小遣い帳を作成し、家族に確認していただき、理解を得ている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出や近所への散歩を支援している。利用者の意向を踏まえて、柔軟に外出できるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個々の希望を取り入れた外出を行っている。	○	今後は、家族を含めた外出支援を行いたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内の電話は気軽に利用できるよう、声かけを行っている。いつでも家族・知人に、手紙やハガキを書けるよう配慮している。場合により代筆し、投函することができるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人の来訪もあり、居心地よく過ごせるような空間(場)の提供を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部外部研修を実施し、十分に話し合いの場を設けることで、身体拘束についてのクレームは皆無である。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守りを徹底し、開放できる時間を設けている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はホールに必ず一人は見守りをしており、部屋のドアには本人の同意を得て、ゴミ箱をはさみ、安全確認をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	調理後の包丁やキッチンばさみ等は、使用後は利用者の目の届かない場所に保管している。カッターやはさみ等は必要時に出し、終了後は速やかに保管することで危険を防いでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状況を見極め、起こり得る事故を把握し、ヒヤリハットを作成し、可能な限り事故防止に努めている。また、事故が起きた際には、事故報告書を作成し、事故再発防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署員、看護師による定期的な勉強会を設けたり、応急手当のマニュアルを作成している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣住民の協力のもと防災訓練を行い、地域で防災運動に取り組んでいる。また、緊急時に近隣住民の協力が得られるよう、支援活動を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時などに説明し、理解や協力を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの体調変化の早期発見に努め、気付いた際には、医師・看護師・家族に速やかに連絡を取り、指示に従う。また、職員間においても、申し送りやケースへの記載で情報の共有化を図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴をケースにファイルしており、薬の管理等は、看護師と連携を取りながら行っている。また、病状の変化により、処方の見直しなどを行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体を動かす機会を設けたり、水分補給を促し、予防と対応に取り組んでいる。また、排便の記録を行い、便秘時には医師・看護師への報告し、指示をもらっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行っている。口腔ケアに抵抗のある利用者には、うがいをしてもらおう等、いつも清潔を心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が、栄養バランスの取れた献立を作成している。一人ひとりに合わせた食事形態で提供し(ミキサー状)、摂取量の記録を残して、給食ミーティング等で栄養士協力のもと、栄養や水分の状態の報告と対応について検討している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対して職員が対応できるように、市町・保健所からの指導、通達をもとに、注意喚起を図り、感染予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ハンドグローブ、消毒剤を使用し、安全な食材管理に努めていると同時に調理器具などの熱処理や台所の消毒に心がけ、食中毒の時期には、感染症マニュアルに沿って実行している。。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	気軽に出入りし、面会ができるよう玄関に飾りをしたり、お知らせなどを貼るなどし、親しみやすい玄関周りを工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に花を飾る工夫をしたり、整理整頓を心がけ、快適な住空間を保てるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に畳を設置し、洗濯物をたたみながら昔話に花を咲かせたり、利用者の家族が持って来られたキーボードに合わせて歌を唄い、利用者が和まれる空間となっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものや好みの物があれば、自由に持ち込んでいただき、快適な居室を心がけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	必要に応じて換気を行い、個別には、エアコン・カーテンなどの空調に配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、廊下やトイレに手すりを設置している。居室のベッドの配置は身体機能に合わせ、ベッドを移動して位置を決めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの力量に合わせた支援ができるよう、利用者に合った個別レクリエーション活動や趣味を行うことで、本人の生活リズムで生活を送ることができるよう支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関の外および中庭に菜園があり、ベランダには一緒に買った季節に応じた花などを植え、水やりをしていただいている。役割意識を持って活動することができるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
		<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/> ③たまにある
		<input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者・家族が、安心していただけるように、今後も利用者主体で家族と施設の壁を作らず、何でも話していただけるようなアットホームな雰囲気、地域の中で気軽に足を運んでいただけるように心がけている。委員会の活動を活発にしており、各担当が情報収集し、意見を出しあい、ミーティング時に発表し、業務にも大変役立っている。